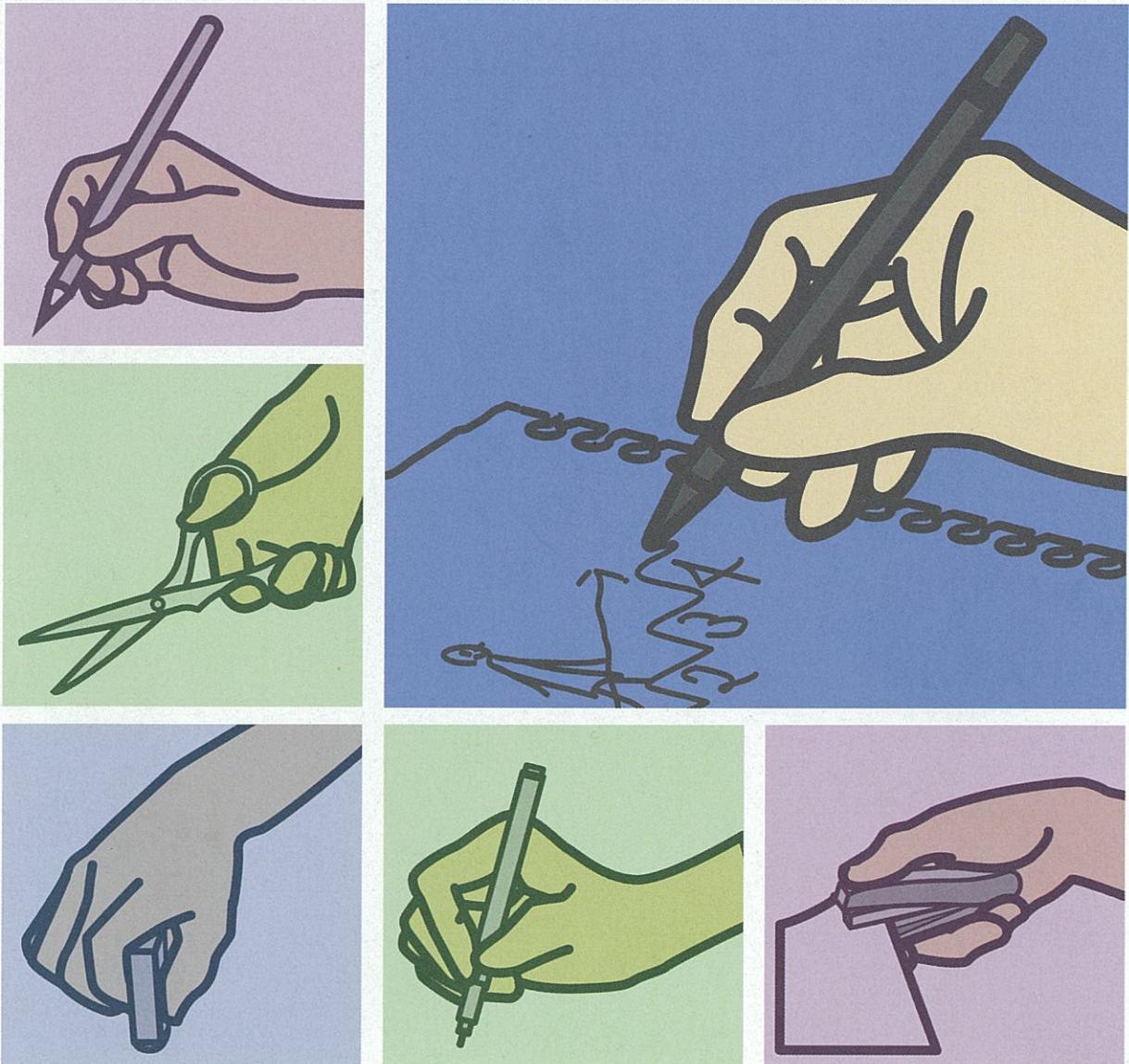




国際シンポジウム 海外先進教育実践支援プログラム

国際標準の学部初年次 教育実現へ向けて

——教員・職員・学生の新しい連携の形



平成19年3月26日 13:00~17:00
東京大学 駒場Iキャンパス 18号館ホール
主催・東京大学大学院総合文化研究科・教養学部
共催・東京大学教養学部附属教養教育開発機構

❖Opening Speech

開会のあいさつ

古田元夫（理事・副学長）



本日のシンポジウムの開会にあたり、東京大学を代表いたしまして一言ご挨拶を申し上げたいと思います。

現在、東京大学は、時代に要請されているという面からも、「世界のトップクラスの大学になりたい」という目標を掲げております。現在の私どもの総長である小宮山宏が、在任期間中の目標を描いた「アクションプラン」というものを発表しておりますが、その中でも教育は一番重要な項目に位置づけられています。そして「アクションプラン」の教育分野の中で、もっともはじめに位置づけられているのが「理想の教養教育」であり、本学における教養教育の充実が重要視されているのです。

世界でもトップクラスの研究大学である東京大学では、さまざまな分野で最前線の研究が行われているわけですが、高度の専門性を学生に身につけさせるためにも、教養教育という土台が非常に大事であると認識しております。

しかし、「少子化」「都市化」という時代の流れの中で、大学に入ってくる学生が体験している人間関係の幅は、以前に比べるとかなり縮小していることもあります。そういう学生たちに対して、「大学における教育をどのように充実させていくのか」という点からサポートすることが大切になってくるのです。いわゆる高校から大学への移行問題、つまり「大学の初年次教育」の持っている意味が、非常に重要なものとして私どもの課題になってきていると考えています。

教養学部を中心にし、文部科学省・海外先進教育実践支援プログラムの援助を受け、「国際水準の初年次教育」というプロジェクトが動いていることは、東京大学全体にとっても、非常に重要な意味を持っていると考えています。特に、このプログラムでは、教員だけでなく職員も、アメリカのハーバード大学やペンシルベニア州立大学での研修に参加をしています。教員・職員・学生が新しい連携関係を持って、それぞれが初年次教育の主体になっていくという試みが進んでいることは、東京大学全体にとって大変意義ある試みだと思っています。

今回のシンポジウムが大きな成果をあげることを期待して、東京大学を代表して、ご挨拶させていただきました。どうもありがとうございました。



国際シンポジウム 国際標準の学部初年次 教育実現へ向けて

海外先進教育実践支援プログラム

——教員・職員・学生の新しい連携の形



CONTENTS

開会の挨拶 ······ 4
古田元夫 (理事・副学長)



1 Guest Speech from Harvard Univ. ゲストスピーチ

ハーバード大学学部教育における取り組み ······ 6
トマス・ディングマン Thomas Dingman (ハーバード大学初年次教育部長)



2 KOMABA 1st Year Program 駒場キャンパスにおける初年次教育



- | | | |
|------------------|----------------------------|----------|
| 駒場における初年次教育 | 山本 泰 (教養学部附属教養教育開発機構執行委員長) | ····· 18 |
| 駒場のニーズ調査結果紹介 | フルヤヒロユキ (教養学部 3 年) | ····· 22 |
| FRESH START @ 駒場 | | ····· 26 |



3 MIRAI Program みらいプロ研修プログラム



みらいプロ研修プログラム実施の概要

清水義教（教養学部附属教養教育開発機構） ··· 32

研修参加者による研修成果の報告

キャンパス内外での移行支援プログラム	38
学びのためのアドバイジング：学部選択と学習助言	40
学生支援担当者の研修システム	44
新しい教務の形：オンラインシステムの可能性	46
質疑応答	51

教育国際化の取り組み

ペンシルベニア州立大学の ISS	52
HCAP 東京	54

4 Discussion 総合討論 ··· 58

